SOCIAL MEDICAL CORPORATION
SHOUWAKAI

OTA PRESS

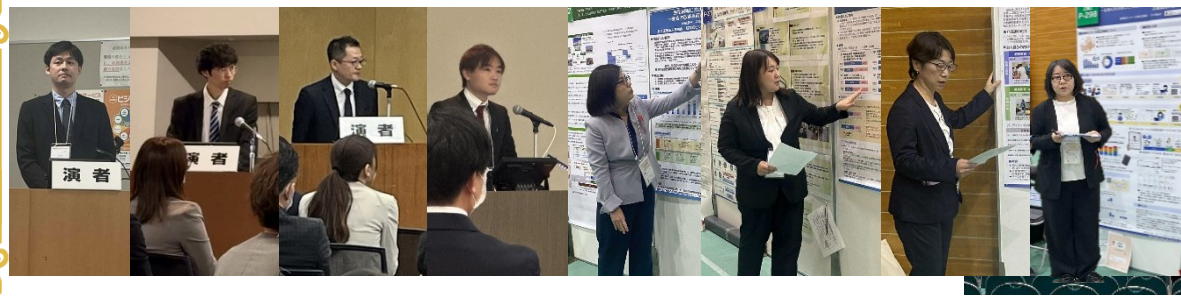
For Partners

Nov. 2025

温故知新
その先の、道へ。北海道から新風を

第66回
全日本病院学会in北海道
THE 66TH CONGRESS OF ALL JAPAN HOSPITAL ASSOCIATION IN HOKKAIDO

社会医療法人祥和会　福山脳神経医学研究所の佐藤京子研究員が発表した「壮年期男性脳梗塞患者における家族形態と来院時間および退院先との関係」が優秀賞を受賞しました！



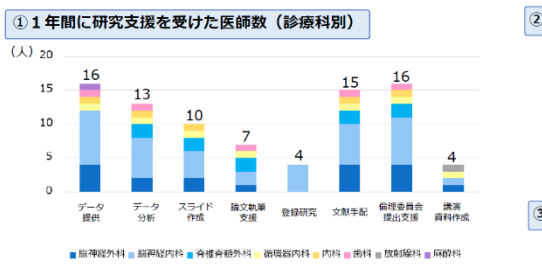
2025 年 10 月 11・12 日の 2 日間にわたり、『温故知新～その先の、道へ。北海道から新風を～』をテーマに、北海道・札幌市内で第 66 回全日本病院学会が開催され、当院から 4 人が口述、4 人がポスターセッションで取り組みを発表しました。その内容についてご紹介します。

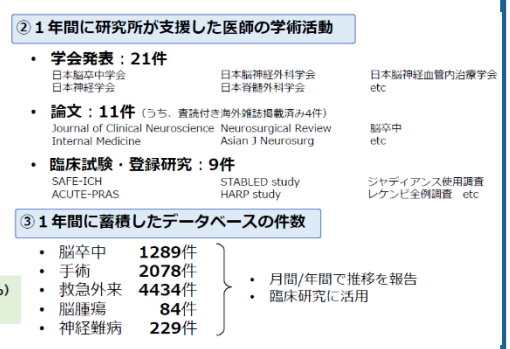
民間病院における医師の学術活動支援 ～働き方改革以前からの先見的な取り組み～

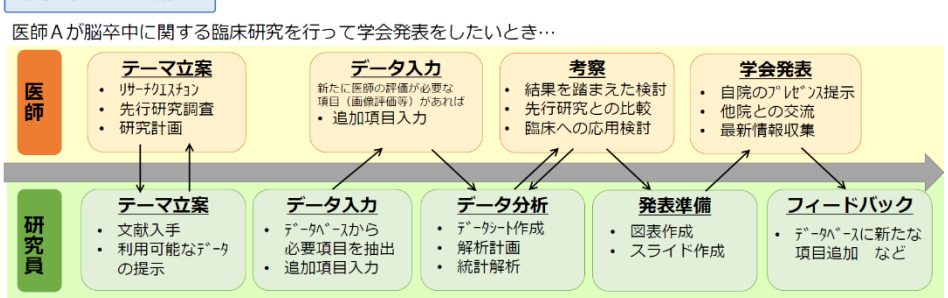
福山脳神経医学研究所　佐藤 京子

アカデミアでない民間病院においても医師が学術活動を継続できるよう、当院は 23 年前より院内に研究所を設け、研究員を配置し、医師を始めとする職員のデータ収集から学会発表、論文投稿などのサポートをしてきた。当院の研究所機能による医師の学術活動支援の効果を検証する。

方法・結果：2023 年 10 月からの 1 年間に研究所が支援した医師の学術活動は、学会発表が 21 件、論文支援が 11 件（うち、査読付き海外雑誌掲載済み 4 件）。学会発表を例にとると、データ収集・入力、データ分析、発表準備を研究所が支援することで医師の労働時間を大幅に削減できており、さらに研究の専門職が支援することで研究の質も上がっていると考えられる。







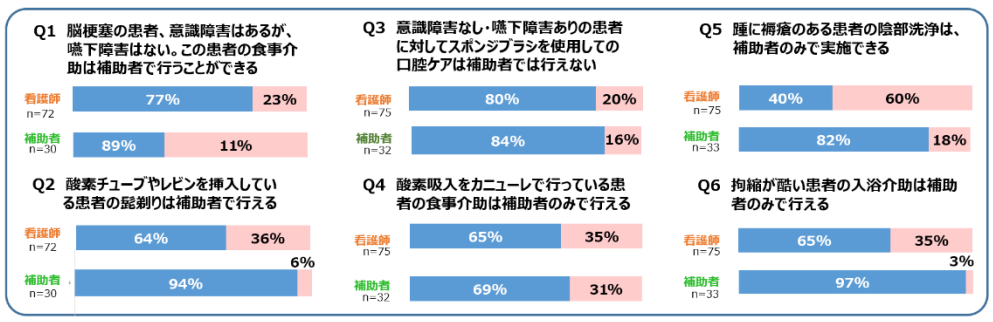
結論：院内に研究所機能をもつことで、医師の労働時間を削減しながら学術活動の質・量の向上に貢献でき、医師の働き方改革にも奏効していると考える。

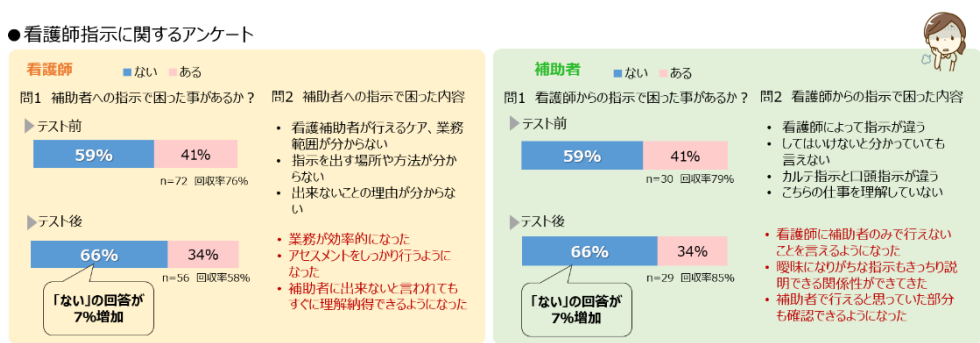
看護補助者による安全な患者ケアを目指して 看護補助者業務内容の意識調査

看護部介護課　松田 まゆり

看護補助者（以下、補助者）は、看護師から法令に基づいた指示を受け、安全な患者ケアを行う必要がある。しかし、看護師と補助者の双方において業務内容の理解が不足していると安全なケアが提供できない。安全な補助者業務を目的とし、補助者の業務内容の理解度について調査した。

方法：2024 年 12 月に看護師と補助者（計 124 名）を対象に、看護師の指示出しと補助者の指示受けについてアンケートとテストを実施。





看護師の 41%が指示出しで「困ったことがある」、補助者の 48%が「指示内容の統一性がない」と回答。テストでは、シリンジポンプ使用時やコルセット装着時の患者対応の認識に違いがあり、正答率が低かった。看護師が補助者の業務内容を理解する事で指示の統一ができ、働きやすい環境に繋がる。そのためには、間違えやすい項目の学習を繰り返し行う事が有効と考える。

救急外来への応援看護師の不安軽減に向けての取り組み

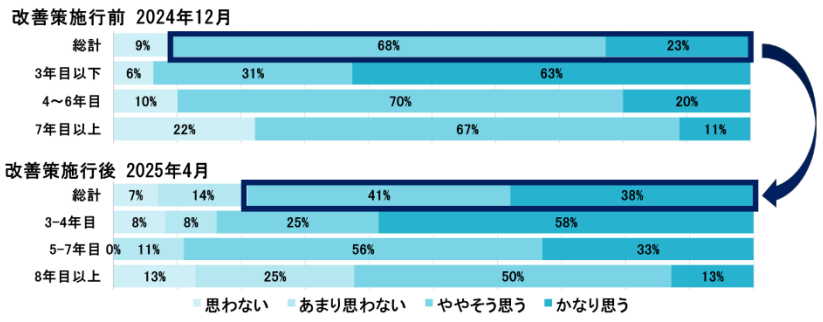
看護部　小畠 直樹

当院は広島県にある脳神経疾患専門病院で、2024 年度は脳卒中救急を 1289 件受け入れた。脳卒中は時間との戦いであり、早期治療が回復の鍵となる。救急で患者が複数名重なることも多く早期対応を行うため、応援看護師が自立した対応ができるよう、現状把握と教育を行った。

方法・結果：2024 年 12 月に応援看護師 35 名へアンケート調査を実施。応援に不安を感じているかの問いに対し応援未経験者 85%、応援経験者 91%が不安と答えた。救急応援業務リストで業務の明確化を行い、救急患者対応マニュアルを作成し、救急搬送された患者対応の OJT 研修を 1 名ずつ実施した。

改善策実施後、アンケート結果

Q. 救急外来への応援業務の不安やストレスについて？



『ややそう思う』『かなり思う』の総計　91%　→　79%へ

他部署への応援は経験年数高い看護師でも不安やストレスは強い。応援看護師への依頼内容を明確にし、対応研修を行う不安軽減策を実行できた。引き続き、状況問わず脳卒中患者に対し早期治療が行えるよう、救急外来と応援看護師が協働し円滑に行える体制作りを目指す。

看護師の交代制勤務による睡眠状況の実態調査

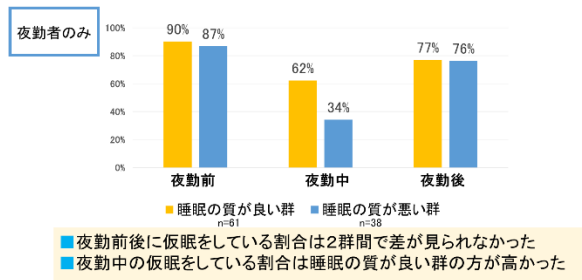
看護部　山本 兼資

看護師は交代制勤務もしくは睡眠環境の変化により睡眠障害を生じるリスクがあることがこれまでにも報告されているが、当院看護師における交代勤務による睡眠への影響や各自工夫している手段について調査を行った。

方法・結果：当院に勤務する看護師 125 名を対象に、ピッツバーグ睡眠問診票(PSQI-J) および入眠のための工夫をアンケート調査により実施した。夜勤の有無による PSQI-J の睡眠の質の評価は有意差がなかったが、6 点以上で睡眠障害の可能性が高いとされている中、9 点以上となったのは夜勤スタッフのみ(22 名)であった。

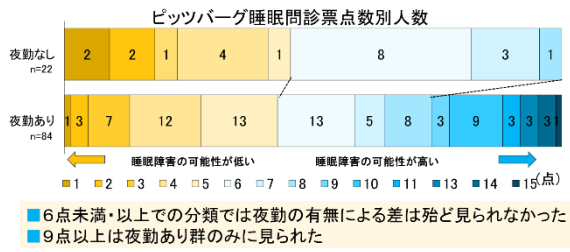
睡眠の質が良い群と悪い群に分けたところ、夜勤前後の仮眠の有無では有意差が見られなかった。夜勤中の仮眠の有無では、睡眠の質の良い群の 62% が夜勤中に仮眠をしていたが、睡眠の質の悪い群では 34%であり、有意な差がみられた。

結果：睡眠の質による夜勤前・中・後で仮眠をしている割合



結果：ピッツバーグ睡眠問診結果

当院看護師:163人中125人が回答(76.7%)



結論：夜勤前後の日中の仮眠ではなく、夜勤中の仮眠と睡眠の質の良さとの関連が示唆された。

臨床検査課の仕事

当院の臨床検査技師は幅広い分野の検査を担い、地域の皆様の健康を多方面から支えています。脳波検査や神経伝導検査を通して、てんかんや末梢神経障害など神経疾患の診断をサポートし、手術中には神経機能を確認する術中神経モニタリングを行い、安全な手術の実現に貢献しています。

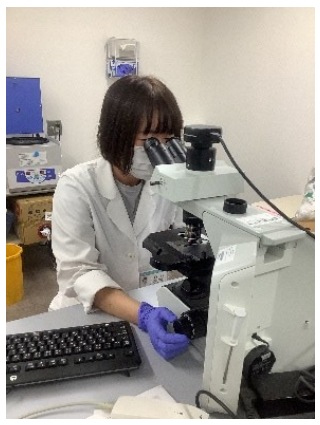
生理検査部門では心臓、腹部、血管、甲状腺、血管などを対象とした各種超音波検査を実施し、病気の早期発見に努めています。さらに検体検査部門では、血液、尿、輸血検査などを 24 時間 365 日体制で行い、救急医療や夜間診療にも迅速かつ正確に対応しています。また外来での採血業務も臨床検査技師が担当しています。

【認定取得】

認定心電図専門士	２名
脳神経超音波認定	１名
日本臨床神経生理学会専門技術師脳波分野	２名
日本臨床神経生理学会専門技術師筋電図・神経伝導分野	２名

睡眠医療の分野では睡眠時無呼吸症候群の診断に欠かせない終夜睡眠ポリグラフ検査を行い、治療に必要な CPAP の導入や在宅管理を継続的にサポートしています。加えて健診や人間ドックなどの検査も担当し、生活習慣病やがんの早期発見、予防医療の推進にも寄与しています。

私たち臨床検査技師は、検査精度の維持と質の高いデータ提供を通じて、信頼性の高い検査結果を提供することを目標としています。今後もチーム医療の一員としての役割を意識し、地域に根ざした安全・安心な検査を行っていきたいと思います。



「TONARI」でつながる地域医療

当院では、７月より一部医療機関を対象に、検査共同利用の WEB 予約システム「TONARI」の運用を開始しました。
これにより、検査予約や画像の送受信がオンラインで可能となり、地域医療機関との連携がよりスムーズかつ迅速に行えるようになりました。患者さんにとっても、より円滑な診療体制の構築につながると期待されています。
ご興味のある方は、地域医療連携室までお気軽にお問合わせください。

■発行　脳神経センター大田記念病院　地域医療連携室　TEL：084-975-3900 FAX：084-928-2769